

# 隠れた名演奏家を聴く 第2回

## プログラム

今日は、優れた才能を持ちながら、一般的に隠れがちな名演奏家達をご紹介しますシリーズの第2回目です。**アール・ワイルド (1915~2010)** はアメリカ、ピッツバーグ生まれでエゴン・ペトリ、ポール・ドグリューに師事。10代で作曲を始める等早くから才能を開花。1942年トスカニーニの招きで、ガーシュウインの「ラプソディー・イン・ブルー」でオーケストラと初共演を行って大成功を収め、名声を確立します。ヴィルトゥオーゾ・ピアニストとして知られた名手で、幅広いレパートリーを持っていましたが、特にロマン派作品では、豪快でスケールの大きな名人芸で魅了しました。**アーロン・ローザンド (1927~ )** はロシア系の父、ポーランド系の母を持ち、インディアナ州ハモンドに生まれたアメリカのヴァイオリニスト。3歳でヴァイオリンを手にし、9歳でリサイタル・デビュー。10歳でシカゴ響とメンデルスゾーンでコンチェルト・デビューを果たします。イザイ門下のサメティエニに師事、カーティス音楽院ではジンパリストに学び、1955年にヨーロッパ・デビュー、世界的なヴァイオリニストとしての名声を確立しました。イザイ等に代表されるフランコ=ベルギー派（フランスやベルギーで発展したヴァイオリン奏法の流派）、オイストラフ等のロシア派両奏法の伝統を継承し、19世紀の香りを残した独特のロマンティシズムは魅力に溢れています。**ピョートル・アンデルジェフスキ (1969~ )** はワルシャワ生まれのポーランドのピアニスト。1990年のリーズ国際コンクールで、予選での演奏が圧倒的な評価を得たにも関わらず、次の演奏で自身納得がいかず本選を棄権したという逸話が先行しがちですが、多彩な音色と明晰なピアニズムで豊かな音楽を造り上げる名手です。**セルジュ・ボド (1927~ )** はフランスのマルセユ生まれ。パリ音楽院を卒業後、1959年指揮者デビュー。1962年にはカラヤンの代役としてミラノ・スカラ座で指揮、一躍注目を浴びます。1969年~1987年リヨン国立管弦楽団の芸術監督。1997年~2000年スイス・イタリア放送管首席指揮者、2001年~2006年プラハ交響楽団音楽監督を歴任。同僚のプレートルと比べると知名度で劣りますが、豊かな色彩感としっかりとした音楽を造り上げる名指揮者です。

\*\*\*\*\*

**ムツィオ・クレメンティ (1752~1832) :**

**ピアノ・ソナタニ短調/ニ長調 op.40-3 ~ 第1楽章から、第3楽章**

アール・ワイルド (ピアノ) (1978.10.25 ニューヨークでのLive)

**フランツ・リスト (1811~1886) :**

**ハンガリー幻想曲 G.123**

アール・ワイルド (ピアノ) / 森 正指揮 NHK交響楽団  
(1985.4.6 昭和女子大学人見記念講堂でのLive)

**パフロ・サラサーテ (1844~1908) :**

**ツイゴイネルワイゼン op.20**

アーロン・ローザンド (ヴァイオリン) / ヒュー・サング (ピアノ)  
(2004.5.13 王子ホールでのLive)

**アンリ・ヴィニャフスキ (1835~1880) :**

**ヴァイオリン協奏曲第2番ニ短調 op.22 ~ 抜粋**

アーロン・ローザンド (ヴァイオリン) / フェルディナント・ライトナー指揮 NHK交響楽団  
(1983.6.17 NHKホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

**モーリス・ラヴェル (1875~1937) :**

**組曲“マ・メール・ロフ” ~ 1.眠れる森の美女のパヴァーヌ 2.親指小僧 5.妖精の園**

セルジュ・ボド指揮 NHK交響楽団 (1982.1.20 NHKホールでのLive)

**ヨハネス・ブラームス (1833~1897) :**

**交響曲第3番ハ長調 op.90 ~ 第1楽章、第3楽章、第4楽章**

セルジュ・ボド指揮 スイス・イタリア放送管弦楽団 (1997.6 ルガーノでのLive)

**カロル・シマノフスキ (1882~1937) :**

**交響曲第4番“協奏交響曲”(ピアノ協奏曲) op.60 ~ 第1、第2、第3楽章抜粋**

ピョートル・アンデルジェフスキ (ピアノ) / セルジュ・ボド指揮 シュトゥットガルト放送交響楽団  
(2010.6.4 ベートーヴェンホールでのLive)